

令和六年度 斑鳩の里を詠む 塔の里吟行」

大賞

斑鳩の風は語部秋桜

森 美江

【山下幸典先生 選】

特選	寄る者の秋思解かるる思惟菩薩	加藤 ちえ
入選	斑鳩の風は語部秋桜	森 美江
〃	三塔の間に間に深く秋の空	宮本 こぼ
〃	暇ひとつなき秋空に塔高し	米澤 悦子
〃	塑像てふ呷形像や秋の声	地引 民子
〃	夢殿の厨子より伝ふ秋の声	前谷 章子
〃	揺るぎなき千古の塔や秋気澄む	荒井 圭子
〃	頬に指秘むる秋思の半跏像	前谷 章子
〃	秋気澄む世界遺産の鐘余韻	黒田 さち
〃	時の鐘雲一朵なき秋空に	地引 民子
〃	秋晴や松の影濃き築地堀	大地 静子

令和六年度 斑鳩の里を詠む 塔の里吟行」

【古賀しぐれ先生 選】

特選	夢殿の八方正し秋澄める	大橋 明子
入選	土橋にも太子の遺香菊日和	池田 幸恵
〃	太子と吾同じ月見る法隆寺	田嶋 佳津枝
〃	天高し塔より先の果知らず	立入 宮子
〃	夢殿は太子の香り小鳥来る	青木 敬子
〃	法起寺の色なき風に揺るるもの	山田 佳音
〃	仏恩の秋晴ならむ塔の里	小井川 和子
〃	塔の空名残尽きせぬ秋燕	山田 佳音
〃	斑鳩の風は語部秋桜	森 美江
〃	コスモス田ひと色となる先に塔	中田 豪起
〃	ランナーに道を譲れり稲雀	岡本 へちま

令和六年度 斑鳩の里を詠む 塔の里吟行」

【正岡 明先生 選】

特選	子規庭の色付く柿を想ふ鐘	河合 佐和子
入選	糸瓜水子規絶筆の佛かな	平谷 茄美
〃	影ひとつ落とし消え去る広島忌	中野 花山
〃	野分雲宮大工急く法隆寺	西野 猛
〃	すぎる虫終の住処の塔の闇	中本 宙
〃	太子と吾同じ月見る法隆寺	田嶋 佳津枝
〃	時の鐘雲一朵なき秋空に	地引 民子
〃	頬に指秘むる秋思の半跏像	前谷 章子
〃	子規を恋ひ句碑を慕ひて秋の蝶	松田 吉上
〃	太子偲ぶノーベル平和賞の秋	青木 敬子
〃	松籟の静寂をやぶる鴟高音	中畑 文子

令和六年度 斑鳩の里を詠む 塔の里吟行」

【和田 桃先生 選】

特選	斑鳩の埒を惜しみつつ帰燕	雑賀 みどり
入選	花々を休む間もなく秋の蝶	白井 桃紅
〃	断雲は空の落書き鳥渡る	西尾 幸子
〃	田仕舞の煙棚引く塔の里	宮元 美恵子
〃	土橋にも太子の遺香菊日和	池田 幸恵
〃	ランナーに道を譲れり稲雀	岡本 へちま
〃	斑鳩の風は語部秋桜	森 美江
〃	塔の風雲は飛天に豊の秋	森 美江
〃	法隆寺の鐘の余韻を聞く花野	河合 佐和子
〃	塔見上げ笑む俳人に小鳥来る	藤井 ケイ子
〃	秋晴や松の影濃き築地塀	大地 静子